

発表案件

1 平成28年度佐渡市一般会計補正予算(第4号)の概要について

平成28年度佐渡市一般会計補正予算第4号について説明します。9月定例市議会に佐渡市一般会計(補正)予算第4号を上程いたします。今回の一般会計の補正予算の規模ですが、8億5,435万6千円を追加し、予算総額が457億8,815万8千円となります。

歳入では、地方創生推進交付金、これが国からの交付決定を受けましたので、補正予算として4,200万円を計上いたします。対象事業についてはすでに当初予算に計上済みで、佐渡米ブランディング事業に2,500万円、“住んでよし、訪れてよし佐渡”佐渡版DMOを核とした地域づくり事業に1,700万円を充当いたします。

歳出につきましては、両津湊・河崎地区統合保育園移転改築事業、これは両尾、河崎、椎崎、湊保育園の4園を統合し、旧両津東中学校跡地に定員150名の保育園を建設するものです。工事期間は平成28年度から平成29年度の2か年を予定しており、今年度は2億5,383万2千円を計上し、来年度は10億2,504万7千円を計上する計画です。

続いて繁殖和牛支援施設整備事業補助金について、佐渡の畜産振興を図るため国の補助事業を活用し、JA佐渡が中心となり整備する和牛繁殖支援センターの建設事業に対して補助するものです。実施期間は平成28年度から平成29年度の2か年を予定しており、今年度は2,928万6千円、来年度は2億9,073万6千円を計上いたします。

次に、平成22年赤泊プールにおいて発生した事故による損害賠償金についてです。相手方との和解により、損害賠償金1,400万円を支払うものであります。

続いて戦略的観光誘客促進事業に係る債務負担行為の設定です。来年度に実施する「二次交通対策事業」、「資源を活用した誘客促進事業」、「観光バス対策事業」について、今年度から広告・宣伝するために必要な債務負担行為を設定するものです。

また、その他の経費については、人事異動等に伴う人件費の補正を計上するほか、6月補正予算編成後の事由による緊急性のある経費について計上させていただきます。

2 佐渡トキツデーウォーク2016の開催について

今年で7回目となります「トキツデーウォーク」を、10月22日 土曜日、23日の日曜日、この2日間にわたり開催します。

今回は、佐渡金銀山の世界遺産登録を目指し、金の道を歩き、史跡探訪をとおして、豊かな自然と薫り高い文化、そして秋の味覚感じて頂けるよう工夫を凝らしました。

10月22日は、新穂から畑野地区を歩き、トキとのふれあいや、古刹を堪能するコースです。ショートコースは、トキふれあいプラザ、国の重要文化財「銅鐘」のある神宮寺を巡る10kmのコースとなります。ロングコースは、10kmのコースから更に足を延ばし、長谷寺などをまわる22kmのコースとなります。

翌10月23日は、真野地区を中心に金の道を歩きます。ショートコースは、豊田の諏訪神

社、大山祇神社を巡る9kmのコースです。ロングコースは、9kmのコースに加え西三川ゴールドパークを折り返す21kmコースとなります。途中には秋祭りの見学や、西三川の旬の果物を試食できます。ツーデーウォークでは、この他にも佐渡の秋の味覚を楽しんで頂こうと、ゴール後にはおけさ柿、昼食時には味噌汁を無償で振る舞う予定です。

なお、別途料金とはなりますが佐渡産食材をふんだんに使いました「地産地消弁当」をご用意しますので、お申し込みください。

ツーデーウォークの参加費は、高校生以上、お一人様1日あたり千円、中学生以下無料となっております。申し込みは10月7日 金曜日までに、佐渡市スポーツ協会へお願いします。

ウォーキングに加え、佐渡の文化を知り、旬の味覚を堪能できる良い機会ですので、市民の皆さまからも多数のご参加をお願いいたします。

事前質問

○市長は現庁舎を使うC案で進めるといいますが、結局20～30年ですぐに市の負担割合が大きい新庁舎建設の必要が出てくる。高齢者や身障者にも優しく負担割合の低い60年以上使える新庁舎の建設を自ら棒に振ったと思わないか？

新庁舎の建設については、8月2日および12日の議員全員協議会におきまして、合併特例債を活用して華美な部分を削りながら新庁舎を建設するとともに、現庁舎は改修せずに解体するという事で毎年発生するランニングコストを削減。約60億円以上の財源を投じて建て替えや大規模改修を行っています支所・行政サービスセンターを有効活用しての機能的な分散配置とする計画を提案させていただき、議論をさせていただきました。ただ、残念ながらこの計画についてご理解を得ることができませんでした。

その中でいただいた意見の大部分は、現庁舎については解体することなく建物の長寿命化や、耐用年数も含めて利用できる限り使用すべきというものでした。

それを踏まえて、将来の庁舎等のあり方について再検討させていただきました。その結果、新庁舎の建設は取りやめ、現在の本庁舎を改修し、可能な限り長い期間の活用を目指すことにしたいと思います。

今後は、年度ごとに建設基金を積み立てながら、将来的な人口や市の職員数、行政サービス内容の変化等をにらみながら、後年に再度全体の整備計画をたてることとします。

なお、市民の皆さまに対しては新庁舎建設取りやめについては十分な説明を行ったうえで、理解を求めていきたいと思えます。

○柏崎原発の再稼働に慎重な姿勢だった泉田知事が今秋の知事選を降りたことで佐渡市に与える影響は？また、環境エネルギーの促進を公約にした三浦市長の今後の政策への影響は？

泉田知事の知事選出馬辞退という事が直ちに原子力発電所の再稼働に結びつくかは、立候補者の考え方、そして、選挙の結果によると考えています。このため、今の時点で佐渡市に影響が及ぶかどうかについては判断できません。一方で、原子力発電所における万が一の事故が起

きた際の影響については、佐渡における環境エネルギー施策の推進とは切り分けて、安全・防災面での考えるべきものであると考えています。

質疑応答

(1)平成28年度佐渡市一般会計補正予算(第4号)の概要について

<記者>

この中の赤泊プールの件なんですけど、最初訴訟を起こした男性と妻の人が亡くなられていて今娘さんとなっているみたいなんですけど、亡くなられた原因というのはなかなか分からないかも知れないんですけど、なぜ亡くなられたんでしょうか

<市長>

旦那さんは事故を起こした当人です

<記者>

それで亡くなられたと聞いているんですけど、事故が原因とか

<総務課長>

旦那様につきましては、直接起因するかどうかというところは分かりませんが、事故の後に亡くなられていますし、奥様についてはどういう理由で亡くなったかについて詳細には分かっておりません。現在、小学生のお子さんがお一人残っているということで、現在の原告はその小学生お一人になっているということでございます。

<記者>

わからないということですか、男性がその後亡くなられた、訴訟を起こされてから亡くなられたということなんですか

<総務課長>

(平成) 22年の事故の後に、すぐに亡くなられた訳ではなく、その後死亡されたということです。

(2) 佐渡トキツアーウォーク 2016 の開催について

なし

(3-1)事前質問 (庁舎)

<記者>

庁舎の件なんですけど、結局市民負担が3割でできるものを作らないで、また積み立てていくということは、結局50～60億積み立んきゃならんわけですよ、市民にとっては負担になるんじゃないですか

<市長>

50～60億積み立てなければいけないというのは理解できないんですけど

<記者>

新庁舎の規模によるけど50億前後掛かるじゃないですか

<市長>

今回の庁舎の基本計画では30億余りでしたよね。50～60億掛かるという認識はございません。

<記者>

これからどういうふうにも物価が上がるかも知れないし、30億というのは、市長が無理矢理削った金額でしょ

<市長>

2億弱ほど削らして頂いた案を出させてもらったんですが、あくまでも今回出させて頂いた見直し案は、これまでの基本計画と同様にこの庁舎の耐用年数、償却年数が残り19年、そこを踏まえてこれを壊すという前提で組み立てられた計画。その当初案に対して一部見直しをかけさせて頂きました。ただし、現庁舎も含めて、支所・SCも含めて可能な限り使わなければもったいないという議会からのご意見も多数頂き、ほぼ議会の皆さんの一致した発言でございました。となると、耐用年数といわゆる減価償却年数は違っておりましてメンテナンスのかけ方次第では寿命はまだまだ延びるということになりますと、例えば30年、35年先と言いますと今の規模の計画が妥当かどうかということも土台の計算が変わってきますので、であれば改めて前提の考え方を改めて、今後着実に積み立てていながら極力コンパクトな庁舎の整備計画を将来きっちり立てていきたいという考え方に変えた訳です。

<記者>

でも、現庁舎はお年寄りとか体の不自由な人にもかなり使いにくい庁舎ですよ。

<市長>

そのへんのバリアフリー化とかエレベータの設置等の改修は考えています。

<記者>

せっかくのチャンスだから、市民が使いやすい庁舎にできるチャンスを市長がそれを無くしてしまったように感じるんだけどね

<市長>

それは、市民の皆さんによっても評価の仕方、考え方はさまざまあるとおもいますので、ご質問のような一概な考え方をしては言えないと考えています。

<記者>

これだけ、次から次へと案を変えて議会を混乱させたことはどう考えてますか

<市長>

案を変えたのは1回だけです。見直し案を出させて頂いてその見直し案が理解いただけなかったですから、ベースから一度全く違う案に切り替えさせて頂いた。案としては最初の案に対して変更は一回だけという認識です。

<記者>

最初そもそも甲斐さんと議会が進めてきた案を

<市長>

私としての案というものは、先日の全協で出させて頂いたのが第一案でございます。

～～

<記者>

現庁舎はうまく使えばどのくらい使えると

<市長>

それについては、今もう一回チェックしないと確定できないと思いますが、基本的な考え方としてこういう建物は20年に1度しっかり改修、手を入れていけばかなり寿命を延ばせるという風な調査をしています。

～～

<記者>

最初の現行庁舎を解体するという案を出されたとき、甲斐市長の案と三浦市長の案を、その時の説明が壊さないでそのままこれを使うと言うことになると費用が一番掛かるという話をずっと言われていたと思うんですけど、それからまた一転してすぐ変わったというのは

<市長>

あくまでも残り20年という計算での費用で比較させていただいて、ようするに、基本計画の案と同じ年数を含めたトータルの計算方式のベースを合わせた中で現庁舎の金額も現状どおりというはめ込み方である数字は出して頂いたわけで、これがこの庁舎を20年どころか30年、35年使うという前提になるとあの数字は全く別物の数字になりますので、そこは一概に単純に数字をはめ込むと言うことでは無いと思います。そこは普通に考えればお分かりいただけだと思いますが。

20年割りしているだけですから

<記者>

そうなんですけど、その時に一番掛かると言われていたのに、また考え方を改めて

<市長>

30年、35年後ではなく、20年後のあの計画のベースである新庁舎の規模ってものを現計画ではあった訳ですね。だけど、もっと現状の支所SCも含めたものをもっと長く長寿命化して使いきるということになると、その後の本庁舎の建て直しの規模もスペースもかなり現状どおりで良いのかどうかそこまで必要なのかということも年数を共に大きく変わる部分もあろうかと思いますがそこは一概に比較できない

<記者>

繰り返しになりますが、なんで最初から現状の計画でこのまま建てないというのを出さなかったのかなという気がするんですけど

<市長>

基本的には現計画を何年もかけて作って頂いた中で、現計画の考え方に基づいてどれだけコストダウンできるかというその前提を私としてはとらせて頂いた訳です。だけど、その前提についての最大のコストダウンの案がご理解頂けなかったとなると、こちらは前提を取り外して考え直そうということになったということです。

～～

<記者>

この案が市民に対してどれだけ支持されていると思いますか

<市長>

それは、今後市民への説明・理解を求めるが、一定のご理解は頂いていると思っています。

～～

<記者>

説明会はいつからされるんですか

<市長>

現在調整中ですが、早めにやりたいと思っています。

～～

<記者>

防災機能の拠点ということが三浦市長がどのように進めていくのかということが市民が感心持っていますがその点はいかがですか

<市長>

防災機能については一部新庁舎に設定する部分を現庁舎に持ってこなければいけない部分もございます。詳細については最終詰めています。防災計画という言葉で、ここが災害の際に避難所になるイメージをもたれている方もいるかと思いますが、あくまでも現状の計画の中においてもここでのメインの防災計画というのは大災害時の業務の継続の為に必要な備えをするということが大前提の防災計画でありますので、そこは市民の皆さまにもわかりやすく説明していかなければいけないものと思っています。

<記者>

庁舎の中にも防災機能のあるものを設けるとということ

<市長>

元々新庁舎を建てたとしても乗っけなければいけないものでしたし、建てなくても必要なものであります。

(3-2)事前質問 (知事選の影響)

なし

(4)その他の質問

<記者>

金井の保育園の統合をやってますけど、(金井)新保保育園の父兄が今のところでやっていきたいという意見があるようですが、当初説明では(金井)新保保育園では耐震の面でも構造的に長く使えないと説明したらしいんだけど実は耐震的に問題なかったと聞いたんですが

<社会福祉課長>

(金井)新保保育園の個別説明の際に、(金井)新保保育園が耐震診断がダメなのでという説明をした経緯は無いと思っています。ただ、中興保育園が耐震診断がダメで工事が必要だと合わせて説明したところを誤解されたのかと保護者には説明しています。

～～

<記者>

アースセレブレーションが先月開かれましたが、今回からいろいろ手法が変わって全島拡大型になった。いろいろ関係の方思うところがあるのでしょうか、市長が最終日のコンサートの前に市に対して意見をどんどん言って欲しいとおっしゃってましたけど、どんな手法で意見を集めようとされていますか。

<市長>

詳細は観光振興課で数字もあれしていますが、基本的には観光振興課中心に現状も小木方面のホテル・商店街の皆さまの意見の吸い上げも始めていますし、それ以外の地区での人の集まり方がどのようだったかという調査も始めています。そういうもろもろの数字や各地区での反応・意見を踏まえて、来年度以降どういうふうにブラッシュアップしていくか、ここがこれからの作業になりますし、当然このパターン初めてですので当然反省点も出てきていると思いますしこの後増えてくると思います。それに対して来年どう展開を考えていくかということを一生涯懸命考えたいと思います。

<記者>

地元の方に聞き取り調査の様な形でと言ってもらっちゃったようですが

<観光振興課長>

アースセレブレーションの当日に小木を中心に商店街、関係者には聞き取りをしています。

～～

<記者>

庁舎問題ですけども、住民説明会を近いうちに実施されるということでしたけども、時期とやり方についてもうチョット教えて欲しいんですが、通常を考えると議会中は難しいと思いますが10月以降という認識でよろしいですか

<市長>

いや、議会中も含めて日程検討中です

<記者>

やり方については市長が自ら出向いて説明する

<市長>

私も含めてやるつもりです

～～

<記者>

トキの関係で、石川を皮切りに環境省は分散飼育地での公開に向けて進んでいる訳ですね。そのあたり佐渡としてはいろいろな思いがあると思いますが、最新の気持ちはいかがですか。

<市長>

最新の気持ちはですか、逆に佐渡市がトキを所有している訳ではございません。あくまでも環境省の所有でありますし、鳥インフルエンザ防止等も含めた分散飼育をやっている。その中で石川県が一般公開を熱望したというのがこれまでの経緯でございますし、佐渡市もいろんな風に連絡は頂いております。石川県の副知事さんも来ていただいたりして石川県からしても佐渡でのこれまでのトキの保護、野生下での活動の内容などについても現地の公開場所

でちゃんとナビゲートできるようなガイドンス施設も作るというのと、向こうからこちらへ誘客を促す際、もろもろの交流も含めて積極的に取り組みたいとの言葉も頂いていますので、その意味では互いに連動して、向こうはケージの中での公開となりますが、そのトキを向こうで見た関西方面の方が野生のトキを見に佐渡へ行こうじゃないかとなってくれれば一番の相乗効果だと思いますので、逆にそちらの部分をどンドン一緒にやっていくということが互いに一番良いよりベターな道だと考えています。

～～

<記者>

以前は反対する議員も大勢いたと思うけど

<市長>

議会にも7月の段階で、石川県が一般公開の方向であるということも議員の皆さまに説明しておりますし、環境省の方でも地元の観光業界等々についても説明を着実にやっている。以前のような流れではないと思っています。

～～

<記者>

新潟佐渡間、その後進み具合、空港の乗り入れはどうですか

<市長>

ここ数ヶ月間で、“進展している”、“ここだけは着実に進んだ”という部分はございません。定期航路の再開については県が主体窓口になって民間のある会社と交渉は続けているという状況に変わりはありません。

<記者>

だいぶ前からその話して、ほとんど進展していないのと等しいと思うんだけど、もうすぐ冬もやってきますし、去年は“あかね”の問題でかなり欠航が出て島民への不便が出ている。何とか急ぐ必要があるんじゃないですか

<市長>

もちろん早期再開を目指しておりますが、主体の県と一緒にやるしかない部分がありますんで、細かい部分でそれ以上のものは……。それは申し訳ないですが、そういうご指摘と踏まえればなかなか進んでいないというのが実態です。

<記者>

目処は立っていないということ

<市長>

はい、(目処は)立っていません